



キャプチャー画像
No.57 | 幸枝、勝、七五三、羽根木公園 | 1965 (昭和40) 年11月 | 明治神宮、羽根木公園 | 4分18秒 | カラー

明治神宮での七五三 撮影者は提供者の夫 (34歳) 提供者も着馴れない和服で参拝 長女は満7歳 長男は数え年で5歳だった その後長男を和服に着替えさせ、自宅周辺で撮影 (提供者みずから撮影) かつては根津山と呼ばれていた羽根木公園で遊ぶ長男 左手にはおもちゃのダンプカー

参加者の記憶を媒介とした対面での「言葉の交流」を目的とする、せたがやアカカブの会。2022年度からは《ハガキ方式》での遠隔実施と対面実施を併用するハイブリッド開催です。今回、ご覧いただいた映像は『幸枝、勝、七五三、羽根木公園』(No.57、昭和40年11月撮影)でした。さて、どのような声が集まってきたのでしょうか。じっくりお楽しみください。

POST-MOVIE

(あ) (1965、昭和40年)生まれていない。大分県

(い) 無声の8mmフィルム映像を見ていると、父が家族を撮影していたことを思い出しました。週末の夕食後、部屋を暗くして、映写会をするのが一家の楽しみだった。逆再生するのが子供だった自分たちには面白く、走ってこける様子だと、倒れている状態から起き上がり後ろ向きに走るのが楽しかった思い出です。
弟が水遊びをして水をまいたと、自分に水がかかると、逆再生で水がコップに落ちる様子が楽しかった。
8mmフィルムのゴミが映るのも、今回の映像を見て昔はこれが普通だったのだと思い出したのかい思っていました。(今どきの動画ではフィルムのゴミが映ることない。)

(う) 49才 世田谷区奥沢



世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

かぶうずら、やまいもうなぎ アカカブの会の記録2023 no.2
発行日：2023年2月16日

お問い合わせ：生活工房 03-5432-1543 info@setagaya-ldc.net
編集：せたがやアカカブの会世話人(松本篤、八木寛之、成田海波、ブルサコワありな)
主催・発行：公益財団法人せたがや文化財団 生活工房
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
http://www.setagaya-ldc.net/
企画制作：remo [NPO法人記録と表現とメディアのための組織]
後援：世田谷区、世田谷区教育委員会

本誌の無断転写、複製、転載を禁じます。

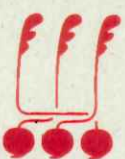
穴アーカイブ：an-archive
せたがやアカカブの会vol.36《ハガキと対面のハイブリッド》
開催方法：アカカブの会々員に郵送した返信用ハガキに回答・返送してもらいました
開催日時：2023年12月10日(日) 14:00~15:30
ハガキ募集期間：11月8日 - 12月7日
回答数：10名(ハガキ4名 対面6名)



(あ) 7歳、群馬・高崎市、小学校一年生。
(い) 遠足で前橋公園の一角にある児童遊園地に行きました。動物も飼われていて、猿を間近に見たのは初めてだったように記憶しています。
(う) 70歳、世田谷区

POST-MOVIE

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83



せたがやアカカブの会 The setagaya akakabu circle
穴アーカイブにおいてデジタル化した映像を、じっくり観ながら語り合う小さな集いの場。ほぼ隔月で開催 開催予定、上映内容は、生活工房HPまたはお問い合わせからご確認下さい。一見さん大歓迎 本誌「かぶうずら、やまいもうなぎ」は、当会の断片的・公式活動記録



穴アーカイブ：an-archive

記録を残すという営みを、記録が残らないこと、すなわち、記録の不在(穴)から捉え直す反(an)アーカイブ的アーカイブの試み。昭和30~50年代にかけて市販された8ミリフィルムという映像メディアに着目し、世田谷のまち、ひと、くらしに光をあてる。2015年から始動。

世田谷文化生活情報センター
生活工房
Lifestyle Design Center

